

平成21年度地域CT賞

1) 題目：「プロセス設計技術講演会・見学会」（東北支部）

本活動は、1968年7月に発足した「東北地区化学工学懇話会」の活動の一つとして1988年11月の初会合以来、21年にわたって通算60回開催され、東北地方の化学工学活動に貢献してきました。1997年の支部発足を機会に現在の名称に変更されたが、基本的に年3回開催しその内2回を宮城県内、1回を東北地方各県で巡業開催するというスタイルを継続してきた東北支部でもっとも長期にわたる活動である。

本活動では、化学工学に関連する民間企業、各種国立研究所や地方自治体の研究所、高専や大学の見学会を企画し、見学先の研究者に講演を依頼してきた。民間企業に見学会・講師を依頼する際には、専門的な研究発表にこだわらず、会社の宣伝も兼ねた自由なスタイルでの講演依頼を心がけることで継続的な活動運営を維持している。

本活動の功績は大きく二つ挙げられます。一つは継続的な地方巡回開催により、支部と各地区懇話会ならびに各地区研究者の交流の維持・発展に貢献してきたことである。もう一つは開催地域やテーマによって化学工学に係わらず適宜地域の研究会や他の学協会支部、分科会などとの共催・協賛を積極的に進めることにより、各県の懇話会や化学工学会への多数の入会を誘い、会員増強や地方における化学工学の発展に寄与したことです。

以上、21年の長きにわたり地域と密着して活動し、地域の化学工学活動の活性化と会員相互の交流ならびに化学工学ならびに懇話会会員増強に貢献し、持続可能なスタイルの確立による長期間の活動を行ってきた貢献度の観点から、地域CT賞にふさわしいものであると認められました。

2) 題目：「コンビナート講習会」（関東支部）

本講習会は、コンビナートの操業・管理に関連する技術情報を、コンビナートに従事している会員、とくに特に、操業の実務を担当しているオペレータや、管理・運営を担うミドルマネージャーに直接聴講して頂くことを目的として、1986年に第1回目を開催し、20年以上の長期間にわたって継続開催しております。しかし、これらの業務に携わる多くの方は、現場を長時間にわたって離れることは難しいので、関東近郊に所在するコンビナートに出向いて開催する（出前講習）という形式を採ることで、参加しやすくしていることが本講習会の大きな特徴になっています。

当初、鹿島地区では三菱化学（旧三菱油化）の施設を、千葉地区では三井化学の施設をお借りして、隔年持ち回りで開催していたとのことですが、2005年からは、コンビナートを形成する他の企業の協力を得て、各地区において開催施設も持ち回りにしました。また、2008年には関東近郊のコンビナートで唯一開催されていなかった神奈川地区においても、神奈川懇話会の協力を得て開催することができました。

本講習のテーマは、会場をお借りする企業の意向をうかがいながら、ひとつのテーマに絞り込み、産・学・官より、関連する情報を5～6件提供頂き、その時代その時代で、最もホットな情報を提供できるように企画しております。

上記のように、地域に密着し、聴講者の立場にたった企画を心がけ、多くの会員に支持されていることから、地域CT賞にふさわしいものであると認められました。

3) 題目：「医薬品製造に関わるMPの最新動向：講演会・見学会」（関西支部）

この「講演&見学会」は、製薬企業が集積する関西の地域性を鑑み、化学工学会会員並びに広く社会に貢献する関西支部の重要な活動の一つとして、1994年にはじまり、2010年2月まで16回目を迎える長期事業です。

GMP（Good Manufacturing Practice）とは、医薬を確実に再現性良く製造するために、薬事法によって厚生労働大臣が定めた医薬品の品質管理システムであり、医薬製造の適正管理に関するドキュメント作成などの法律の問題であると同時に、製造工程の管理とまさしく確実な製造を実現するための反応操作、さらに晶折、遠心分離などの分離操作、洗浄、乾燥など多岐にわたる化学工学を中心とした技術的な問題です。医薬製造工程管理とGMPに関する法律遵守義務は、日本だけではなく、世界共通の課題となっています。日本の製薬企業が海外に、あるいは海外の製薬企業が日本に製造を委託する場合においても、その製造所がGMP基準を満足した設備と工程管理ができていることが必要で、それを保証するために、たとえば、厚生労働省、FDA（アメリカ食品医薬品局）、自治体などによる査察が行われています。

関西支部では、GMPの概念が医薬製造に導入された当初より、日本における安全で確実な医薬製造に貢献すべく、とくに化学工学が貢献できる上記のような技術的課題に重点をおいて、表題の「講演&見学会」に長年取り組んできました。参加者の利便性を考えて、開催時期は、いつも2月初旬と定め、1日目は講演会で、2日目が製薬企業あるいはGMPに準拠した医薬原薬および中間体製造企業の見学会という2日間のプログラムを提供してきました。2008年度まで過去15回の「講演&見学会」に全国各地から参加していただいた企業は233社を数え、参加者数は延べ2200名を超えています。この「講演&見学会」は、見学を受け入れていただいた企業の協力無くしては成り立たないものですが、幸い今までに33社の協力を得ることができました。この「講演&見学会」は、日本の医薬製造技術、とくに反応と分離操作における曖昧さを無くし、確実なプロセスを保証する技術的発展と医薬品の品質管理に少なからぬ貢献ができたと評価され、地域CT賞にふさわしいものであると認められました。